



▲全隈城

空から見た全隈城。南から撮影。赤線で囲った尾根上に、約370mにわたって細長い平坦地が作られています。



▲全隈城の堀

▲全隈城縄張図

作図：高橋宏和(『続 図説茨城の城郭』)

水戸の城さんぽ

問合せ／歴史文化財課(☎306・8132)

其の八

全隈城 村の城

今日は村人が築いた城を
紹介するぞぞぞ！



城は、地域を支配した領主(武士)が築城したものと
いうイメージがあります。しかし中世の城特に山
城)を歩いていると「構造が簡単すぎる」「築かれた場
所が交通の要所でもなく、攻めるにも守るにも不便」
というように、領主が築いたにしては、構造や場所が
不自然に感じる城があります。

このような城は、誰が何のために築いたのでしょ
うか。そんな疑問に対し、歴史学者で『水戸市史』の執筆
者でもある藤木久志(ふじきひさし)さんは、今から30年ほど前に「村
の城」という考え方を発表し、歴史学界に大きな衝撃
をもたらしました。「村の城」とは、村人が築いた城の
こと。藤木さんは古文書などの分析をおして、民衆
が戦争から身を守るため、近くの山中に「小屋」など
と呼ばれる簡単な城を作って避難していたことを証明し
ました。城は武士だけでなく民衆も築いていたのです。
では、水戸に「村の城」はあるのでしょうか。今年3
月に県教育委員会が発行した『茨城県の中世城館』には、
市内で唯一「村の城」の可能性があるとされた城が掲載
されています。それが今回紹介する全隈城です。
全隈城は、鶏足山塊(けいそくやまぐたい)から伸びる細長い尾根の上に築
かれています。区画(曲輪)は西から本丸、二の丸、三
の丸に分かれ、各曲輪の間には空堀があります。堀の
深さは2〜3m程度。傾斜が緩いため簡単に乗り越え
られます。曲輪の内部は細長い平場になっていて、建

物の遺構はありません。例えるならば、長さ約100
m×幅約20mの、鉄道のプラットホームのような細長
い平坦地が、東西方向に3か所連なっているようなイ
メージです。「村の城」と呼ぶにふさわしい、とても簡
素な構造といえます。

城の南側には全隈の集落が広がっています。この集
落はかつての全隈村で、戦国時代にも記録がある村で
す。中世の全隈村は江戸氏の領域内にあり、江戸氏側
近の小祝氏(こいわい)が領主だったことを示す記録が残ってい
ます。小祝氏(こいわい)がどのような一族だったのかは分か
りませんが、側近として普段は江戸氏当主のそば近くに
仕えていたため、領地である全隈村は、村の自治に任
せていた可能性が高いと考えられます。

また、全隈村の北方約500m先は佐竹氏と江戸氏
の領域の境目でした。佐竹氏が侵攻する可能性もある
土地です。領主の城があればそこを避難所にすればよ
いのですが、全隈村にはそのような城の存在は確認さ
れていません。そのため村人たちは自力で城を築き、
佐竹氏の侵攻に備えたのでしょうか。

結果として佐竹氏は全隈方面には侵攻せず、城は使
用されずに済んだと思われる。しかし、いつの時代
も危機管理は大切。全隈城は、そんな中世の危機管理
のあり方を示す城といえるのです。

歴史文化財課 関口慶久

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
ホームページ / <https://www.city.mito.jp/>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107
☎029・224・5188 kouhou@city.mito.jp